

伊藤仲間信じて投げた 右腕でもぎ取るD賞だ

今大会ここまで完璧な投球を見せてきた伊藤。しかし、連投に次ぐ連投で疲労はピークに達していた。

「キャッチャーが一番苦労したかもしれない」

1回二死からヒットを許すなど、計18球を要する苦しい立ち上がりとなった。しかし、伊藤に迷いはなかった。

伊藤自身が言うように南幌町職は鉄壁の守備を誇る。チーム最年長・笠原のサインにも絶対の信頼を寄せる。伊藤は信じて投げた。2回以降は落ち着いた投球を取り戻し、白糠町職打線に付け入る隙を与えなかった。

「無我夢中で投げた」

終わってみれば安打4本、長打は1本に抑えた。しかし、そのことにも気づかないくらい、投球に集中していた。

今大会すべてを通じて最も活躍した選手に贈られるダイヤモンド賞を受賞した。大会本部も満場一致だった。

「全国大会に向けて団結して一戦一戦頑張りたい」

伊藤の目はすでに熊本へ向いていた。ナインへの信頼がある限り、伊藤の夏は終わらない。



山本最優秀選手弾！2ランで勝利引き寄せる

黒島監督(南幌)「優勝できたのは何とんでもチームワークの良さ。日々の練習を怠らない選手たちの成果だと思う。週6回練習しているが、全員来られなくても手を抜かずにしっかりやっている。それを他の選手が真似することがいい方向へつながっている」

1本塁打1二塁打の山本(南幌)「6回の打席はつなぎの気持ちで入った。感触は入ると思わなかったので、外野を抜けてくれと思って走った。8回は1点でも多く取って投手を楽にしたいと気持ちを高めて入った」

先制適時打の小中(南幌)「6番、7番が当たっていたので楽に打席に入れた。熊本では国体でお世話になった人がいるので恩返し活躍をしたい」

伊藤を好リードの笠原(南幌)「連投で伊藤は調子が悪かったがよく投げってくれた。熊本では全道代表として恥じない戦いをしてきた」

今大会3本塁打の上田(白糠)「もともとクリーンナップだったが今年から2番になり、内野安打ばかり狙っていた。今大会は調子がよく、ベンチからも細かい打撃はいらなと言われて思い切り振れた」



両チーム応援団も声からす

南幌町職からはこの日7名が応援に駆けつけた。地元からも試合の経過を聞く電話がひっきりなしにかかり、試合終了と同時に結果を報告、勝利の喜びを分かち合った。「今はお疲れさんの一言。熊本は暑いので体に気をつけてほしい」と選手たちをねぎらった。

白糠町職の応援団も最後まで逆転を信じて声援を送った。「準優勝はよくやった」と、負けた悔しさよりも選手たちの健闘を讃えるすがすがしい笑顔に満ちていた。

大会結果

優勝 南幌町職 (初優勝)

準優勝 白糠町職

【個人賞】

最優秀選手賞	山本 篤 (南幌町職)
殊勲賞	小中 康司 (南幌町職)
敢闘賞	上山 聖悟 (白糠町職)
打撃賞	山本 篤 (南幌町職)
ダイヤモンド賞	伊藤 文敏 (南幌町職)
勝利監督賞	黒島 滋規 (南幌町職)



上) 悲願の初優勝を飾った南幌町職と 右) 最優秀選手賞を受賞した山本選手
下) 右下) 初の決勝進出を果たし準優勝の白糠町職

